

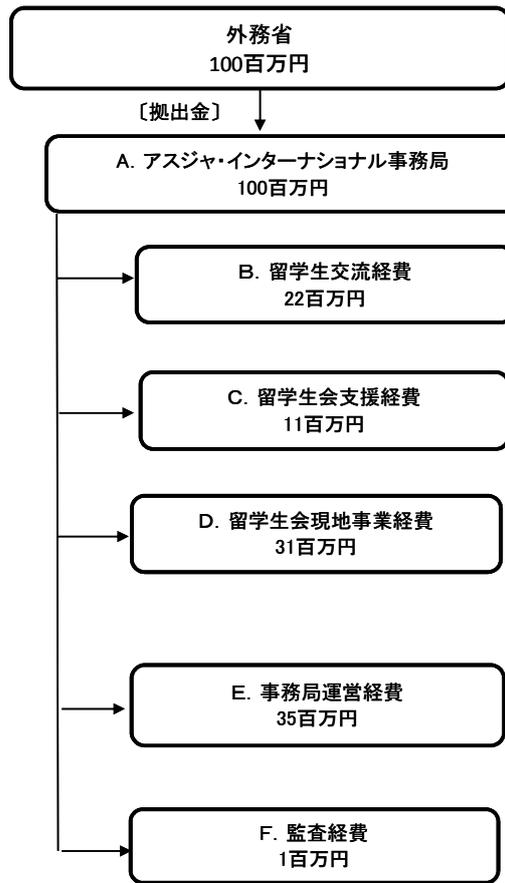
平成25年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	アセアン留学生交流等拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	外務報道官・広報文化組織			作成責任者
事業開始・終了(予定)年度	平成26年度開始		担当課室	人物交流室			室長 中田 昌宏
会計区分	一般会計		政策・施策名	基本目標：Ⅶ分担金・拠出金 具体的施策Ⅶ-1 国際機関を通じた政府及び安全保障分野に係る国際貢献			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第1項及び第3項		関係する計画、通知等	アスジャ・インターナショナルからの要請			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	アスジャ・インターナショナル(以下アスジャ)は、ASEAN各国の帰国留学生会と連携してASEAN諸国からの留学生に対し交流事業を実施し、将来我が国とASEAN諸国間の友好協力関係の中核的担い手となる親日家、知日家を養成・支援する。また、ASEAN各国の帰国留学生会が、自ら本交流事業に参加する次世代の留学生を選出することで、日本との繋がりを維持することとし、帰国留学生会を活性化することも期待される。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	アスジャは、ASCOJA(ASEAN元日本留学生評議会(元日本留学生が組織するASEANか国の帰国留学生会の連合組織))加盟10か国の各帰国留学生会から推薦された留学生を毎年3名(大学院レベル2名、学部レベル1名)計30名を受入れ、本拠出金を以て、留学生の対日理解と我が国との友好関係増進を図るため、様々な日本文化体験行事、我が国市民との交流事業等を実施する。また、ASCOJA加盟国の帰国留学生会幹部で構成される国際理事会を毎年2回(1回は書面にて)開催し、本事業の運営方針等を協議する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		当初予算	-	-	-	100	
		補正予算	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	
	計	-	-	-	-	100	
	執行額	-	-	-	-	-	
執行率(%)	-	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値(26年度)
	アスジャの交流事業に参加した年度毎の卒業生の内、日本企業・日本関係機関に就職または母国において日本語教師等に就職した者の人数。達成度は、卒業生総数に占める上記人数の割合。	成果実績	人				6
		達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	26年度活動見込
	交流事業の実施回数		活動実績(当初見込み)	回			
単位当たりコスト	10,000,000(円/1回)		算出根拠	26年度要求額(100百万円)÷交流事業の実施回数(10回)			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	留学生交流経費	-	22	新しい日本のための優先課題推進枠(100百万円)			
	留学生会支援経費	-	11				
	留学生会現地事業支援経費	-	31				
	事務局運営経費	-	35				
	監査経費	-	1				
	計	-	100				

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	・平成25年は、日・アセアン40周年であり、これを契機として更に日ASEAN関係を拡大する必要がある。また安倍総理も「未来を担う若い世代の交流を更に活発に行い、相互理解を促進する」を柱の1つとする対ASEAN5原則を発表しており、政府の取り組みとして、ASEANの帰国留学生会として経験・実績を有するASCOJAとアスジャのネットワークを活用した留学生交流を拡大する必要がある。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	・支出については、目的に応じた調達方法で業者を選定し、コスト削減に努めている。また、国際理事会が承認した年度計画・予算に沿って真に必要なものに限定して実施している。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	・母国に帰国した元留学生及びその同窓会組織を我が国の外交資産と捉え、我が国の外交政策等の推進に資するよう関係の維持・強化に努めている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		—			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	国際理事会で承認を受けた真に必要な事業のみを実施していく。また、事務局運営費を含め、経費節約に努めつつ、事業を実施してゆく。					
外部有識者の所見						
—						
行政事業レビュー推進チームの所見						
適切かつ効率的な事業実施に努める。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
—						
備考						
(事業番号161:アセアン私費留学生対策等拠出金に関し、)平成21年行政刷新会議の事業仕分けで国費留学生事業との重複が指摘されたため、平成23年度以降は本拠出金による奨学生受け入れは中止し、国費留学生大使館推薦枠の中に各国1名のASCOJA推薦枠を設定したことで、平成25年度を以て重複は完全に排除されることとなる。						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	—	平成23年	—	平成24年	—

個別事業名:アセアン留学生交流等拠出金

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)